

特別企画列車「SDGsトレイン 美しい時代へ号」の運行を、 2023年3月まで延長します

東急グループ

東急グループは、阪急阪神ホールディングス株式会社と協働し、SDGs(※1)の達成に向けた多様なメッセージを発信する特別企画列車「SDGsトレイン」(以下、本列車)を、国や自治体・企業・市民団体などと連携して、2020年9月より運行を開始し、2022年9月までの予定で運行してきました。この度、その期間を延長し、「SDGsトレイン2022」として2023年3月まで運行を継続することを決定しました(※2)。

SDGsの認知度向上を図るとともに、SDGsの達成に向けた取り組みを広く社会に普及させ、これにより持続可能な未来を創造していくきっかけになることを目的としている本列車に対して、東急線沿線にお住いのお客様からは継続運行への期待のお声をいただいています。

本列車は、東急電鉄が2022年4月から開始した日本初の取り組みである鉄軌道全路線の再生可能エネルギー由来の電力100%での運行に先駆けて、2020年9月の運行開始時から走行にかかる電力のすべてを(実質的に100%)再生可能エネルギーで賄ってきました。今後も、引き続き東急電鉄の最新の省エネ車両を使用していきます。

東急グループは、今後も、「SDGsトレイン2022」の東西での協働運行をはじめ、さまざまな取り組みを推進めることで、持続可能な未来の創造に貢献していきます。

「SDGsトレイン2022 美しい時代へ号」の概要は別紙のとおりです。

(※1)SDGs:「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称。2015年9月の国連サミットで採択され、国連加盟国が2030年までに地球規模の17の社会課題の解決を達成することを目標に掲げている。

https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

(※2)阪急阪神ホールディングス株式会社が運行する「SDGsトレイン 未来のゆめ・まち号」は2019年5月より運行を開始しており、2025年の「大阪・関西万博」までの継続運行を予定



(東急電鉄「美しい時代へ号」 左:東横線車両 中央:田園都市線車両 右:世田谷線車両)

【別紙】

■「SDGsトレイン2022 美しい時代へ号」の概要

1. 運行期間

2022年9月8日(木)～2023年3月31日(予定)

2. 運行区間

東急電鉄 東横線・田園都市線・世田谷線および相互直通区間で運行

3. その他

詳細については下記ホームページをご参照ください。

<https://tokyugroup.jp/sdgs/>

■「SDGsトレイン2022」の概要

1. 主催者等

主 催：阪急阪神ホールディングス株式会社、東急株式会社（東急グループ）

共 催：阪急電鉄株式会社、阪神電気鉄道株式会社、東急電鉄株式会社

企画監修：一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク

SDGsの達成のために、NGO・NPO、企業など約140団体が参加し、政策提言のほか、SDGsの普及啓発や情報発信、様々な団体との連携の強化を行っているネットワーク団体です。共同代表理事の三輪敦子氏は、日本政府のSDGs推進本部のSDGs推進円卓会議に市民社会からの有識者委員として参加しています。

協 賛：花王株式会社、関西電力株式会社、サントリーホールディングス株式会社、
積水ハウス株式会社、株式会社大和証券グループ本社、株式会社竹中工務店、
凸版印刷株式会社（50音順）

後 援：外務省、環境省、国連広報センター

協 力：関西SDGsプラットフォーム、JICA関西、
社会福祉法人大阪ボランティア協会、公益社団法人日本フィランソロピー協会、
一般社団法人グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン、
特定非営利活動法人市民社会創造ファンド、
京都府、京都市、大阪府、大阪市、神戸市、横浜市、川崎市、渋谷区、世田谷区

2. <阪急阪神ホールディングス> 「SDGsトレイン未来のゆめ・まち号」

運行期間：2025年の「大阪・関西万博」までの継続運行を予定

運行区間：

- 阪急電鉄 神戸線・宝塚線・京都線および相互直通区間で運行
- 阪神電車 阪神本線・阪神なんば線および相互直通区間で運行

※詳細については下記ホームページをご参照ください。

阪急阪神ホールディングス

<https://www.hankyu-hanshin.co.jp/yume-machi/sdgs-train/>

【参考】

■東急グループのSDGsに関連する取り組み事例

<p>◆事業活動における取り組み (東急株式会社、東急電鉄株式会社)</p> <p>・ 東急線全路線を再エネ由来電力100%にて運行</p> <p>：2022年4月より、東急線全路線での運行にかかる電力を再生可能エネルギー由来の実質CO₂排出ゼロの電力に置き換えました。車両更新などの省エネ施策をさらに進め、脱炭素・循環型社会の実現に向けて取り組んでいきます。</p> <p>・ 生活者起点で取り組む新しいまちづくり「nexus構想」</p> <p>：自然や農と融合する「歩きたくなるまち」への進化を目指し、2022年4月にnexusチャレンジパーク早野を開業しました。エネルギー、資源循環、モビリティ、ウェルネス、教育、食といったサステナブルテーマの実証実験や事業化を展開します。</p>	  <p>東急グループのSDGsへの貢献について “美しい生活環境の創造”を目指し、交通をはじめとした生活インフラやサービスと一体となったサステナブルな「まちづくり」に取り組み、事業成長と社会課題解決を両立させ、SDGsに貢献します。</p>
<p>◆とうきゅうキッズプログラム (東急グループ各社)</p> <p>小学生を対象に、親子で一緒に職業体験や施設見学、ものづくりなどのプログラムにチャレンジする体験型のイベントを開催。電車の運転や修理体験、バス営業所の見学、ブライダルアテンダント体験など、東急グループ各社の施設で開催するさまざまなプログラムを通じて社会体験をすることで、好奇心旺盛な子どもたちの成長を応援しています。</p>	
<p>◆東急会による地域貢献活動 (東急グループ各社)</p> <p>国内外の多くの地域で東急グループ各社が事業を展開する中、自然発生的に生まれたのが東急会です。現在、国内23地区と海外4地区において、環境保全、文化芸術・スポーツ振興、福祉・教育活動などを通じ、地域に根差した社会貢献活動を行うことで、企業の社会的責任を果たすと共に、地域社会と東急グループを繋ぐ架け橋となっています。</p>	
<p>◆東急子ども応援プログラム (東急株式会社)</p> <p>東急線沿線で活動する子どもを取り巻く社会課題の解決に取り組む団体へ、助成金の支給などを行うプログラムです。子どもたちの幸せと安全・安心で心豊かに暮らせる地域の持続的な発展を願って2020年度からスタートしました。助成先は、毎年の公募で決定します。2022年度は12団体へ総額1000万円の助成を実施しています。</p>	
<p>◆東急財団への支援</p> <p>公益財団法人東急財団は、2019年4月、「とうきゅう環境財団」「とうきゅう留学生奨学財団」「五島記念文化財団」を合併して誕生しました。東急グループは、以下の活動を行う東急財団への支援を行っています。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 環境分野：多摩川および流域の環境保全に関する調査研究への助成や広報活動、小学校への環境副読本の配布など・ 国際交流分野：日本の大学院で学ぶアジア・太平洋地域からの留学生に対する修学・研究活動への資金援助など・ 文化芸術分野：オペラ・美術分野の有能な新人への顕彰と海外での研鑽助成、オペラ公演への助成など	

■「SDGsトレイン2022 美しい時代へ号」協賛各社のSDGsに関する取り組み事例 ※五十音順

◆花王株式会社

つめかえ・つけかえ用製品の提案による省資源化



花王は1990年代から、つめかえ・つけかえ用製品を提供し、プラスチック使用量の削減に取り組んできました。今も、より便利に、より楽しくお使いいただけるよう、つめかえ・つけかえ容器を進化させています。これからも、様々な暮らしの場面で、お客様と共に資源の削減に取り組んでいきたいと思いません。

※詳細な情報については下記ホームページをご参照ください。

<https://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/eco-approach/>

◆積水ハウス株式会社

「5本の樹」計画



「新・里山」(本社のある大阪・梅田スカイビル北側)

住宅を通じた生物多様性保全に向け、2001年から生態系に配慮した造園緑化事業「5本の樹」計画を進めています。「3本は鳥のために、2本は蝶のために、地域の在来樹種を」との想いを込め、地域の在来種の中でも、特に鳥や蝶との関係が深く、庭木として利用可能な植物を「5本の樹」と、庭木の提案を行っています。この理念に賛同いただいた多くのお客様のご協力のもと、2001年の事業開始からの累積植栽本数は1,810万本となりました。

※詳細な情報については下記ホームページを御参照ください。

https://www.sekisuihouse.co.jp/gohon_sp/method/

◆株式会社竹中工務店

ライフサイクルCO2ゼロへ、竹中工務店が描く設計図



私たち竹中工務店は、カーボンニュートラルな社会づくりでSDGsに貢献します。そのためには、建物をライフサイクル全体でとらえることが大切であると考えています。建物を建てる時だけではなく、その資材の選定や製造、省エネ・再エネを促進する建物の計画、さらに解体時のことも考慮して建物をつくっています。建物に関わるステークホルダーの皆様と協調を図りながら、さまざまな環境への取り組みを積極的に推進していきます。

※詳細な情報については下記ホームページを御参照ください。

<https://www.takenaka.co.jp/co2-zero/>